

マイナビ電子書籍・VOD比較 映画「その男、凶暴につき」の感想調査



「その男、凶暴につき」の感想・評価を調査！



Sさん: ★★★★★

やっぱりセンスが良いの一言。北野武監督のセンスってかなり独特なんですよ。暴力的なんだけど、癖になる。きっと違う監督さんだったら、同じ題材ではこうはならないだろうなという展開に、すごく満足度が高くなります。特に最後がかなり良かった。途中で退席してしまった人はかなりもったないでしょうね。最後が一番面白かったです。

Jさん: ★★★★★

北野武のデビュー作で、かなり衝撃的な映画でした。主人公の暴力的な部分が印象に残るけど、同時に彼の人間らしさも感じられて面白いです。アクションシーンは緊迫感があって、見ていてドキドキしました。北野監督の独特な演出が光っていて、キャラクターも個性的で魅力的です。暴力の中にも深いメッセージがある作品だなと思いました。

Sさん: ★★★★★

北野武監督らしさがでている作品のように思った。ビートたけし演じる刑事の「めちゃくちゃ」ぶりがとてもおもしろかった。犯人逮捕のためには暴力を平気でしているシーンは印象深かった。題名に偽りなしと言えるものであった。

Kさん: ★★★★★

北野武監督のデビュー作で、コメディアン・ビートたけしが持つ破天荒なイメージとは違い、プロットや演出が全体に手堅い作りになっているのが印象的です。若干過剰なバイオレンス描写を除けば、スリリングなポリスサスペンスとして誰もが

楽しめる作品に仕上がっていると思います。また、敵役に当時ロック歌手として活躍していた白竜を抜擢するなど、独特のキャスティングセンスも既に光るものがあります。

Hさん:★★★★

「その男、凶暴につき」は、犯罪と復讐の要素が絡んだスリリングなサスペンス映画です。主人公が直面する過酷な状況と、その中で繰り広げられる緊迫した展開が観る者を引き込みます。暴力的で衝撃的なシーンもありますが、それが映画の雰囲気を一層際立たせています。キャラクターの深層心理や複雑な人間関係が丁寧に描かれ、終始緊張感が続く一作です。

Kさん:★★★★

深作欣二が監督する予定が急遽降板になり、たけし自身がすることになったという逸話も有名な記念すべき監督デビュー作。

のっけからバイオレンス炸裂でかなり面白いです。クライマックスの白竜との死闘も見所充分。

全てに於いてデビュー作とは思えないクオリティで、後の大活躍が予見される出来です。

Nさん:★★★★★

70年代のアングラ映画やB級ポルノの製作で鍛えられたスタッフが製作の最前線に出て来た80年代後半に、この作品は世に出ました。北野武さんは監督としては、これが第一作ですが、武さんの感性と、現場のスタッフのそれが上手く共鳴してこの傑作が世に出てのだと思います。

Sさん:★★★★★

まさにタイトル通りの映画で、「何をするかわからない男が、今そこにいる」という身の毛がよだつような恐怖感をリアルに体感できます。

「まさかそこまでやらないだろう」「少しは人の情があるだろう」と思ったら甘く、

まるで遊びに興じるかのように、次々と非常に残酷な行為が繰り返される展開に、現実の平穏さを噛み締めずにはいられなくなると思います。

Sさん:★★★★★

北野映画初期で、監督自身が若いので、バイオレンスが際立っている。

歩き方さえ独自、映像が独特。凶暴の中にも、笑いがある。

単なる暴力映画ではなく、北野監督が映し出す独自の映像世界。

最近の北野映画で失われた、荒削りで野心を感じる北野監督第1作。

当時、初めて観た時に、衝撃を受けた。

